

# FUJI OIL GROUP 2006



## 第78期 事業報告書

平成17年4月1日から平成18年3月31日



新しいニーズに応じて常に「食」の素材を  
創造し提供する不二製油グループ。  
新製品開発を核とした「ニッチ・スペシャル・  
グローバルNo.1」をめざす企業としての戦略を  
代表取締役社長・浅原和人が語ります。

代表取締役社長 浅原 和人



## 開発型グローバル企業として 世界市場へ本格的に発進する体制が整いました。

### 厳しい市場環境の中にも 展望を拓く好材料

2005年度を振り返ると、エネルギーコストの上昇、乳製品などの原料高、また当社が切り拓いてきた製品市場への他社の参入、安価な輸入品の増加といった外的要因による、当社を取り巻く環境の変化は厳しいものでありました。結果として業績は、連結決算ベースで増収ながら減益となりました。しかしその一方で、今後の展望を拓く好材料がたくさんあったのも当期の特徴といえるでしょう。

市場の動きからいえば、健康志向は依然として強く、健康食品は二桁前後の伸びを示しております。また、高価格ながら美味しい製品が伸びており、低価格品を求めるニーズとの二極化が明確になってきました。

また、景気低迷期から他社に先駆けて実施してきた、国内外への戦略

投資も現在建設中の千葉工場で一段落を迎え、これから利益に貢献していく点も好材料です。

### 解決すべき課題として 収益性改善をめざす

当社はこの3年間、製品の安全・安心に対する保障のための投資、グローバル展開にともなう戦略投資をおこなってまいりました。

今後は、投資を抑え、収益確保へとベクトルの向きを変える方針です。市場開拓や生産性の改善により、生産量が増えることで収益性は改善されます。この収益性改善こそが、来期以降の最大のテーマです。

同時に、1Billion（10億円）コストダウンプロジェクトを発足させ、国際競争力の強化をはかります。

これまでの戦略投資が今後は利益

源となり、2005年度を底として再び増益体制へと転換させていきます。

### 新製品が成果を上げつつある 中期経営計画の「三新開発」

2005年度からグループ全体でスタートした中期経営計画「創造と改革2007（INNOVATE 07）」は、その柱の一つである「三新開発（新製品・新生産技術・新市場）」を核に、成果を上げつつあります。

新製品として市場へ送り出した、風味・フレッシュ感を維持するクリーム（おいしさ維持機能クリーム）、発酵・培地市場への大豆たん白製品の展開、食物繊維を配合した大豆たん白食品、カラーチョコレートなどは、着実に育ってきています。

当社がめざすのは「ニッチ・スペシャル・グローバルNo.1」です。新

製品開発を核にニッチ市場を創造し、シェアNo.1を獲得することで、持続的な成長が可能となります。

その施策の一環として、2005年度より研究開発の組織を改革し、新たに研究開発本部を設置しました。その結果、組織を挙げた横断的プロジェクトによって研究はスピードアップし、基盤技術の強化にも繋がりました。来期においては、新しい原料、育種、栽培などの分野に研究を広げ、新製品開発のさらなるスピードアップをはかります。





### 海外生産拠点の拡充で グローバルネットワークを強化

将来へ向けての戦略投資は、生産体制の拡充に主眼をおいて実施してきました。

大豆たん白新素材の今後の伸長を想定し、分離大豆たん白については、中国・吉林省で10,000トン／年の生産能力を有する新工場を、天津では1,500トン／年の大豆ペプチド工場を完成させました。また、国内の水溶性大豆多糖類生産工場も増設しています。

チョコレート代用脂（CBE）の需要増に対しても、増産体制を整えました。アメリカ、シンガポールにおいて分別設備を新たに増設。CBE世界トップシェアの揺るぎない地位を確立するのが狙いです。

業務用チョコレートについては、グローバルな供給体制を整備。国内

においては、カラーチョコレート専用工場を新設し、海外ではインドネシアの業務用チョコレートの生産能力アップ、中国・張家港では生産能力を倍増させました。ヨーロッパのベルギーでは業務用チョコレートの新工場を建設中です。

海外の生産拠点拡充は、当社の強みの一つであるグローバルネットワークを、さらに強固なものにします。いわば当社がめざす「開発型グローバル企業」の基盤整備です。そして各工場の現地においては販売強化をはかり、供給体制の強化と足並みを揃えて、市場拡大と収益化を実現していきます。

また、国内の千葉に建設中の新工場は、マーガリンなど油脂加工と油脂の精製を予定しています。関西と関東の二大拠点体制を整備し、地震等のリスク分散に加え、迅速なデリバリーの実現をめざしています。

### 市場を創造していく コンシューマー製品と ブランド戦略

当社の事業は中間素材の提供を主としていますが、現在、大豆たん白関連事業においては、コンシューマー製品、つまり消費者が直接購入する製品づくりを促進しています。これは市場を創造していくことであり、当社の認知度を高めてイメージアップをおこなう、企業価値向上のためのブランド戦略でもあります。

当社大豆たん白製品のパッケージには、すべて「SOYAFARM（ソヤファーム）」のロゴを付けており、ブランドの認知向上をはかるために専門雑誌・新聞広告・ラジオCM等のプロモーションも実施しています。このソヤファームを通し、暮らしに身近な様々なところで商品提供をしている不二製油として、企業価

値の向上に繋がればと期待しています。

コンシューマー製品としては、特定保健用食品（特保）となっている調製豆乳のほか、新製品「soymilk」や大豆ペプチド8000mgの飲料「ザ・ペプチド」「ペプチドラゴン」、また、通販商品の「野菜の時間ですよ」「イソフラ10」「大豆のギャバだ」なども好評発売中です。

### 「安全・品質・環境」を最優先に 信頼される企業をめざす

当社は「食」を扱う企業です。「安全・品質・環境」への取り組みを“経営の前提”と位置づけ、すべての業務より優先して対処することを規定しております。統括するセンターを設置して専任役員の下、お客様の安心・安全のための管理をはか

っております。

トレーサビリティシステムの充実やISO9001（品質管理）・HACCP（安全性管理システム）、ISO14001（環境マネジメントシステム）の認証取得を推進し、産業廃棄物のゼロエミッション化にも取り組んでおります。

また昨年、食育基本法が施行されましたが、健康な社会づくりへの直接的な働きかけも「食」に携わる者の務めだと思っております。当社は、不二たん白質研究振興財団を創設して成人病研究などへのサポートや、生活習慣病についての公開講演会も各地で開催しています。さらには特定非営利活動法人「りんくうメディカルプラザ」に参画し、地域や海外での健康促進、予防医学の普及などの活動を支援しています。

不二製油グループは、事業推進のみならず、CSR（社会的責任）活動

を通じて、世界をフィールドに活動する開発型グローバル企業としてふさわしい価値を確立したいと考えております。今後も、株主様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼される企業をめざして、不二製油は成長を続けてまいります。

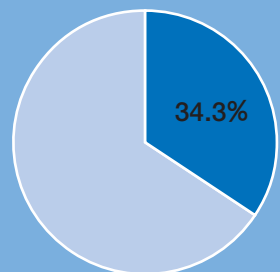
株主様におかれましては、今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



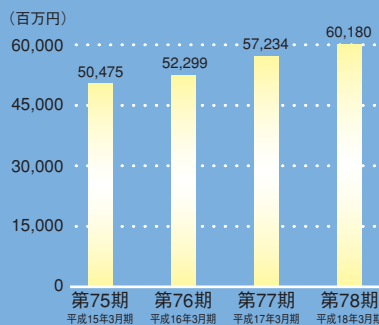


## 高付加価値の新製品開発を積極的におこない スペシャルティファットの 世界No.1シェアをめざします。

■売上げ構成比



■売上高の推移



### チョコレート用油脂は 国内トップ

不二製油グループの油脂事業は、チョコレート用油脂や製菓用油脂、サンドクリーム用油脂など、製菓産業に欠かせない植物性のスペシャルティファットをはじめ、天ぷらやインスタント麺、ドーナツなどで使用するフライ用油脂まで、様々な油脂製品を開発し提供しています。なかでもチョコレート用油脂、製菓用ヤシ油、フライ用パーム油製品は国内トップシェアです。世界市場でも、スペシャルティファットの分野ではメインサプライヤーの1つとして、重要な地位を占めています。

### 当期は売上高5.1%増の 堅調な伸び

当期の業績は、フライ用油脂をはじめ

とするコモディティ製品の競争激化により、単体の売上高は減少しましたが、連結の売上高は、前年対比5.1%増の601億80百万円を計上し、油脂事業全体として堅調な伸びを示しました。市場環境の厳しかった国内の事業実績では、フライ用油脂の売上げは芳しくなかったものの、スペシャルティファットの高スナップ性油脂（チョコレート用油脂）や機能性油脂など、新製品を核にした高付加価値製品が好調に推移しました。その結果、売上げが減少したにもかかわらず、利益面で前期を上回っています。

海外のグループ会社においては、欧米・アジア市場ともに、チョコレート用油脂等のスペシャルティファットが伸長し、売上高が大幅に増加しました。世界の食品規格を決定するCODEX委員会の「チョコレート用油脂5%ルール」が追い風になったとみています。

### コストダウンの推進と 新製品開発

来期は、成長への基盤整備の時期であ



るととらえています。世界的なチョコレート用油脂の需要増というチャンスを実に業績へ結びつけるため、米国や東南アジアでの設備拡張や新工場建設によって増産体制を整えます。課題である原油高や原料高には、さらなるコストダウンを推進し、その一方で生産効率改善による収益確保をめざします。更に、厳しい市場環境への対応としては、高付加価値の新製品開発が核になります。また、健康・栄養油脂分野に力を入れ、フライ油市場での拡販をめざします。来期は、生産体制の拡充等による投資で償却等経費の増加が予想されますが、成長への助走期間として質的な向上と充実をめざします。

#### 事業目標

- 生産効率の改善とコストダウン
- 健康・栄養油脂分野の新製品開発
- 海外工場の増産と利益増

## TOPICS

### 2006年10月稼働へ向け、 建設が進む千葉工場

千葉市美浜区新港にある食品コンビナートで建設中の千葉工場は、2006年5月にマーガリン工場がすでに稼働を開始し、現在は10月の油脂精製工場稼働へ向け、仕上げの段階を迎えています。



千葉工場は6万㎡の敷地を有しており、東京湾に面し外航船が接岸できる立地です。海外からの原材料をそのまま工場へ運び込むことができ、物流面での効率化がはかれます。また、敷地内に植物油脂専用のタンクターミナルや自動冷蔵倉庫が併設されている

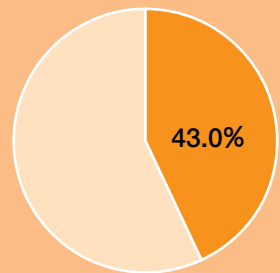


ことで、関東圏の顧客に迅速に対応できる体制が整ったといえるでしょう。また千葉工場の誕生は、関西・関東の生産拠点の分散化により、自然災害等のリスク回避にもなります。

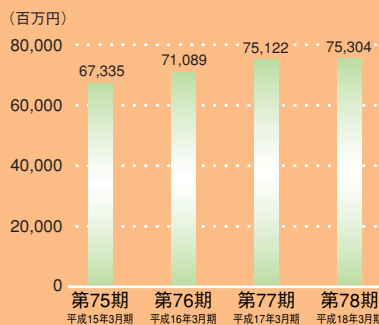




■売上げ構成比



■売上高の推移



## 新生産技術を導入した新工場を核に 付加価値の高い新製品の展開で 市場のニーズに応えます。



### 成長するアジア市場に 大きな期待

パン、洋菓子、デザート、流通菓子、  
 外食・飲料、加工食品の5つの市場を  
 対象に、チョコレートやクリーム、マ  
 ーガリン、フィリング類など幅広い素  
 材を提供しているのが製菓・製パン素  
 材事業です。業務用チョコレートにつ  
 いては、国内トップシェアを誇ってい  
 ます。  
 パンや洋菓子は、世界的に成長を続け  
 ている市場で、中国を中心にアジアで  
 は年率12~15%の伸びを示しているほ  
 どです。不二製油グループは、品質が

高く、競争力のある新製品の開発で、  
 ビジネスチャンスの獲得をめざしてい  
 ます。

### 影響が大きかった 原油高・原料高

当期における製菓・製パン素材事業の  
 業績は、連結で売上高753億4百万円と、  
 前期に比べ1億81百万円増（0.2%増）に  
 とどまりました。  
 カテゴリー別では、各種素材チョコレ  
 ートとクリーム類が好調で、マーガリン  
 とショートニング類が横ばい、フィ  
 リング類やデザート類は市場の停滞な  
 どもあって低調な結果でした。原油  
 高・原料高もあって減収・減益のカテ  
 ゴリーもありましたが、チョコレート  
 ・クリーム類がけん引役となり、全  
 体としては前期を上回る結果となって  
 います。

### 来期は高付加価値製品で 差別化戦略

来期は、2005年に稼動を開始したりん  
 ぐ工場と、2006年5月稼動の千葉工



場（マーガリン工場）は、業績アップ  
 の一つの要因になるとみています。り  
 んぐ工場ではカラーチョコレート、  
 千葉マーガリン工場ではシートマーガ  
 リンを生産しており、いずれも利益確  
 保に欠かせない高付加価値製品である  
 とともに、他社との差別化をはかるこ  
 とができる製品です。チョコレートや  
 マーガリンについては、当期のクリ  
 ーム類における好調要因となった風味・  
 フレッシュ感を保つおいしさ維持の技  
 術を導入する予定で、さらなる差別化  
 がはかれると期待しています。  
 原油高・原料高をはじめとする厳しい  
 状況は来期も変わらないと予想されま  
 すが、生産効率の改善によるコストダ  
 ウンを追求し、差別化できる付加価値  
 の高い新製品を核とした展開で、業績  
 アップをめざしていきます。

#### 事業目標

- 生産効率の改善とコストダウン
- 高付加価値製品の増産
- 他のカテゴリーへの  
おいしさ維持技術導入

## TOPICS

### 新生産技術を導入した、 りんぐ工場・千葉工場が稼動

2005年12月に、りんぐ工場（大阪  
 府泉南市）、2006年5月には千葉マ  
 ーガリン工場（千葉市）が稼動しまし  
 た。りんぐ工場は、食の安全・安  
 心に対応するHACCP（安全性管理シ  
 ステム）の考えを採り入れた環境下  
 で、抹茶やストロベリーなどのカラ  
 ー系素材チョコレートを生産し、千葉マーガリン工場では、高付加価値製品  
 のシートマーガリンの生産もおこないます。また、千葉工場の誕生によって、  
 製菓・製パン素材事業は、関西・関東の二大生産拠点体制が整いました。



りんぐ工場

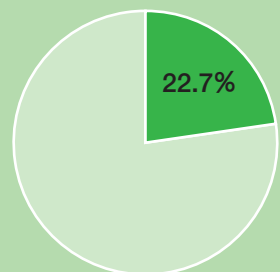
### 好調な新製品、おいしさ維持機能クリーム「ラクレール」

大手洋菓子メーカーや専門店にとって、ショーケース内  
 でのクリーム製品の風味や鮮度の品質の変化は、大きな  
 悩みでした。それを解消したのがおいしさ維持機能クリ  
 ーム「ラクレール」です。おかげさまで発売以来好調で、  
 今後、おいしさ維持の技術はフィリングやマーガリン、  
 チョコレートなどへの展開も予定しています。

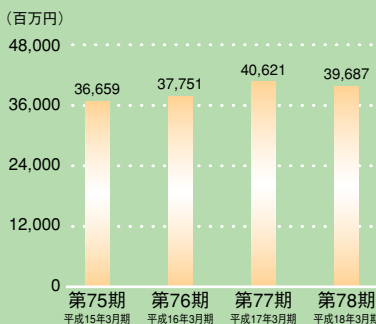




■売上げ構成比



■売上高の推移



人々の健康な暮らしに貢献する  
重要な事業として  
不二製油は考えています。



多くの可能性を秘めた  
大豆たん白

健康食品市場で注目を集めている大豆たん白は、多くの可能性を秘めている素材です。当社が提供している大豆たん白素材は、健康食品だけでなく、ハム・ソーセージや蒲鉾など、一般食品にも、幅広く採用されています。事業としては、食品メーカーへの素材提供と、「SOYAFARM」ブランドとして、大豆の有効成分を活用した消費者向け製品の製造販売が大きな柱です。

製品は大豆ペプチド飲料をはじめとする健康食品として、コンビニエンスストアや量販店、通信販売での展開をおこなっています。不二製油グループでは大豆たん白事業を、社会に有益な、将来を担う重要な事業と位置づけており、積極的な投資をおこない大きく育てていきたいと考えています。

通販部門の新製品が  
相次いで好調

当期の業績は、連結で売上高396億87百万円、前年同期比2.3%減という結果でした。大きな要因としては、市場の停滞、競争激化が挙げられますが、分野によって市場環境が異なり、すべての部門が低調だったわけではありません。大豆たん白食品部門は、弁当給食市場やコンビニエンスストア向けが大きく伸び、大豆ペプチド部門は発酵・培地としてビールメーカーに採用される好材料がありました。また、通販部門は「野菜の時間ですよ」等が好調で大幅に業績をアップさせています。



新製品と市場開拓による  
積極展開

来期への取り組みは、やはり新製品の開発と新市場の開拓が核となります。大豆ペプチド部門は、ビール市場での定着と、国内外の発酵・培地市場への展開が目標です。豆乳部門は、2006年3月に発売した「soymilk 調製豆乳」「soymilk 無調整豆乳」と、新しい食シーンを提案する豆乳ヨーグルトを積極的にプロモーションし、業務用としては、外食産業向け専用豆乳の販売をおこなっています。好調の通販部門は、新大豆有用成分を活用した新製品の健康食品を市場投入します。

事業目標

- 「SOYAFARM」ブランドの浸透
- 新製品開発と新市場開拓
- 収益性の向上

TOPICS

豆乳本来の美味しさを追求した  
「soymilk 調製豆乳」と「soymilk 無調整豆乳」

2006年3月27日、「デイリープレミアム・ナチュラルヘルス」をコンセプトに、「soymilk」の新製品として「soymilk 調製豆乳」と「soymilk 無調整豆乳」を発売しました。新クリアー製法をベースに、安定剤・乳化剤・香料等を一切使用せず、豆乳本来の美味しさを追求しています。



食物繊維を配合した大豆たん白食品を開発

不足しがちな食物繊維（ダイエタリーファイバー）を意識して開発したファイタスシリーズ。大豆に由来する天然素材の食物繊維を8つのアイテムにアレンジし、使い勝手のよい小さなサイズで様々なメニューに利用でき、学校給食を中心に好評を得ています。

大豆の有効成分を使用した通販専用の新製品が大好評

2005年度に通販専用商品として発売した製品が、相次いでヒットを飛ばしています。15種類の野菜・発酵野菜・大豆胚芽が入った「野菜の時間ですよ」、大豆ペプチド・マカエキス・ショウガエキスを使用した「ふしぎなマカ」、そして、日本で初めて抽出に成功した大豆ギャバを製品化した「大豆のギャバだ」等、いずれも健康生活を支える商品として好調な売れ行きをみせています。





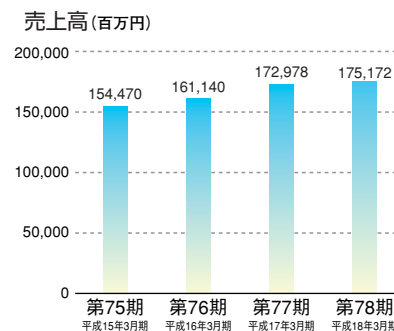
- 2005.4 → **不二製油文化講演会を開催**  
各界より講師をお招きし、年4回開催。第1回目は4月22日、NHKりんくう文化センターの協力を得ておこなわれました。
- 2005.5 → **HFE JAPAN 2005に出展**  
「ソヤファームブランド」の訴求、「不二製油グループの大豆素材」の広がりをアピール、4月26～28日に出展しました。
- 2005.6 → **ソヤファーム冠ゲーム開催 –プロ野球公式戦–**  
「ソヤファームブランド」PRの一環として、プロ野球オリックス・バファローズの主催ゲームに協賛をおこない、4月4～6日、6月27～29日の計6試合を「ソヤファーム冠ゲーム」として開催。「おいしさスッキリ調製豆乳」のPRを実施しました。
- 2005.7
- 2005.8 → **執行役員制度導入**  
7月1日から執行役員制度を導入し、6名が就任しました。
- 2005.9 → **ソヤファイブ-SがFIEの最優秀賞の候補商品にノミネート**  
ソヤファイブ-Sが、欧州最大規模の展示会「Food Ingredient fair Europe」で開催される「The Most Innovative Food Ingredient Awards (最優秀食品素材創造賞)」の最終候補商品としてノミネートされました。
- 2005.10 → **2005年度版 環境報告書を発行**  

- 2005.11 → **不二製油株式会社、創立55周年**
- 2005.11 → **2005 JAPAN CAKE SHOW東京に出展**  
10月4～6日、国内最大の洋菓子展示会（東京都立産業貿易センター）に出展し、ソイ・スイーツ、クリーム、チョコレートの3コーナーに分けて展示しました。
- 2005.12 → **外食産業フェア2005に出展**  
10月6～7日、「LOHAS（ローハス）」をテーマに外食産業フェア2005（サンシャインシティ文化会館）に出展。環境・自然・健康にやさしいライフスタイルを意識した「彩り野菜の衣揚げ」や「ふわふわ豆腐ステーキ」などの製品を出品しました。
- 2006.1
- 2006.2 → **関西ノムラ資産管理フェア2006に出展**  
2月17～18日、個人投資家に向けてのイベント（大阪ドーム）に出展し、事業内容・グループ会社の製品・株主優待の紹介をおこなわれました。
- 2006.3 → **FOODEX JAPAN 2006に出展**  
3月14～17日、国内最大の食品・飲料の専門展示会（幕張メッセ）に出展し、家庭用大豆製品コーナーと海外グループ会社商談コーナーで製品展示や試食をおこなうなど、日本をはじめ海外のお客様にもアピールしました。

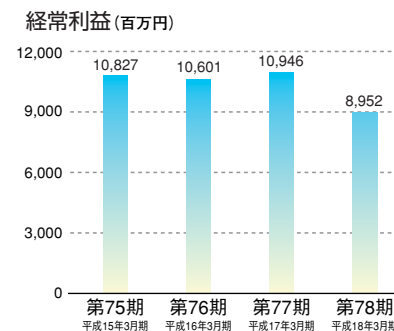


**食料品分野 特許公開件数 2年連続1位**

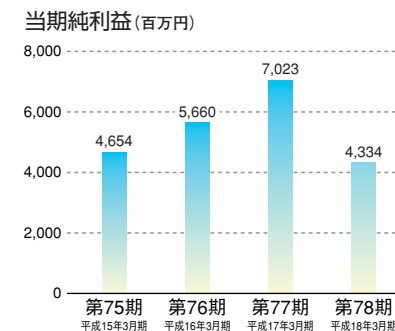
最新版「特許行政年次報告書」（2005年版 特許庁編）において、2003年に日本で公開された食料品分野（国際特許分類A21～A24）の出願件数第1位に、不二製油がランキングされました。公開件数は52。2002年に続き、2年連続の快挙です。



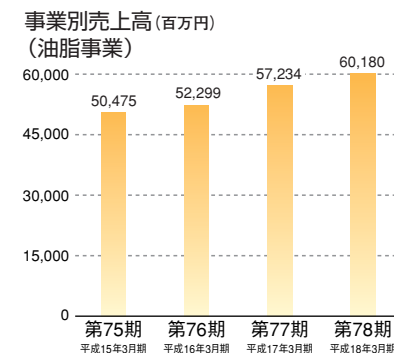
19期連続の増収となりました。



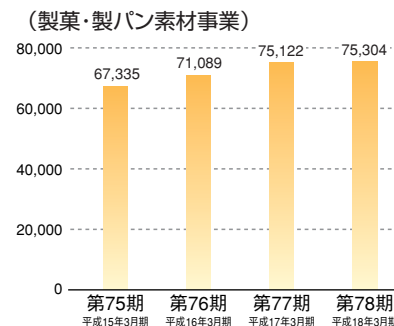
売上高が増加したものの、原料高、経費増等を吸収しきれず、減益となりました。



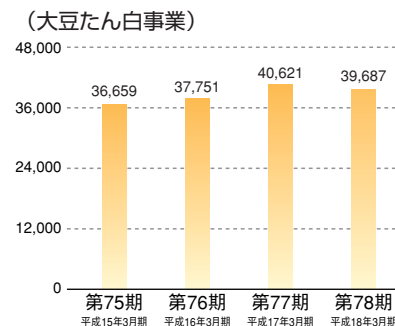
経常利益の減少を受け、また前期は厚生年金基金の代行部分の返上益があったため、当期純利益は減益となりました。



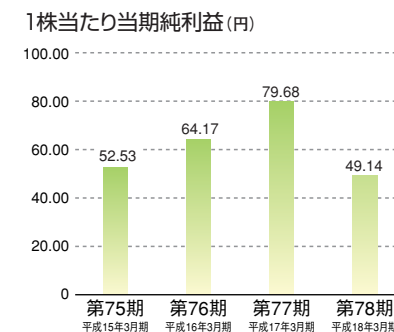
海外グループ会社がチョコレート用油脂などで伸長しました。



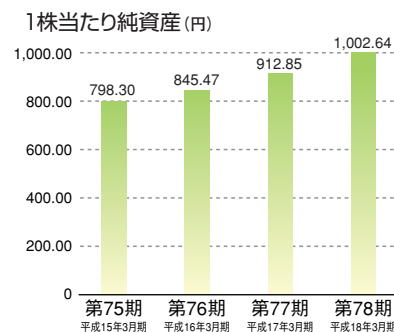
製菓用調整品、素材チョコレートが好調に推移しました。



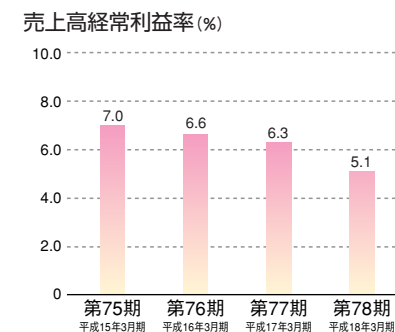
大豆たん白素材などで伸長したものの、大豆ペプチド、豆乳などが前期を下回り、減収となりました。



当期純利益の減益により減少しました。



純資産の増加により、増加しました。



原料高および積極的な設備投資による減価償却費、支払利息の増加など先行的経費の増加により、低下しました。

連結貸借対照表

科目	当期末 (H18.3.31現在)	前期末 (H17.3.31現在)
資産の部		
流動資産	60,458	56,433
現金及び預金	4,324	4,074
受取手形及び売掛金	29,538	28,718
有価証券	274	274
たな卸資産	23,050	20,201
その他	3,271	3,164
固定資産	111,478	97,844
<b>1 有形固定資産</b>	<b>93,712</b>	<b>86,132</b>
建物及び構築物	33,204	31,220
機械装置及び運搬具	41,357	36,120
土地	15,022	14,716
建設仮勘定	2,369	2,486
その他	1,759	1,589
無形固定資産	1,164	872
投資その他の資産	16,601	10,839
投資有価証券	13,307	8,805
その他	3,293	2,033
繰延資産	—	10
資産合計	171,936	154,288

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科目	当期末 (H18.3.31現在)	前期末 (H17.3.31現在)
負債の部		
流動負債	45,748	49,441
支払手形及び買掛金	13,115	12,788
短期借入金	22,909	21,956
一年内償還予定社債	20	5,020
未払法人税等	2,300	1,761
賞与引当金	1,414	1,437
その他	5,989	6,477
固定負債	34,372	21,313
社債	10,160	180
長期借入金	17,309	16,083
退職給付引当金	2,213	2,569
役員退職慰労引当金	337	283
その他	4,350	2,196
負債合計	80,121	70,754
少数株主持分		
少数株主持分	4,022	3,582
資本の部		
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	18,324	18,324
利益剰余金	53,942	50,970
その他有価証券評価差額金	4,544	2,377
為替換算調整勘定	△2,181	△4,884
自己株式	△45	△44
<b>2 資本合計</b>	<b>87,793</b>	<b>79,951</b>
負債、少数株主持分及び資本合計	171,936	154,288

連結損益計算書

科目	当期 (H17.4.1から H18.3.31まで)	前期 (H16.4.1から H17.3.31まで)
<b>3 売上高</b>	<b>175,172</b>	<b>172,978</b>
売上原価	137,068	133,177
売上総利益	38,103	39,801
販売費及び一般管理費	28,826	28,395
営業利益	9,277	11,405
営業外収益	814	459
営業外費用	1,139	917
<b>4 経常利益</b>	<b>8,952</b>	<b>10,946</b>
<b>5 特別利益</b>	<b>—</b>	<b>2,329</b>
特別損失	547	1,919
税金等調整前当期純利益	8,404	11,356
法人税、住民税及び事業税	3,358	3,095
法人税等調整額	537	1,050
少数株主利益	174	187
<b>6 当期純利益</b>	<b>4,334</b>	<b>7,023</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当期 (H17.4.1から H18.3.31まで)	前期 (H16.4.1から H17.3.31まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,779	10,811
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,967	△16,868
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,148	4,885
現金及び現金同等物に係る換算差額	288	△31
現金及び現金同等物の増減額	249	△1,202
現金及び現金同等物の期首残高	4,055	5,258
現金及び現金同等物の期末残高	4,305	4,055

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書

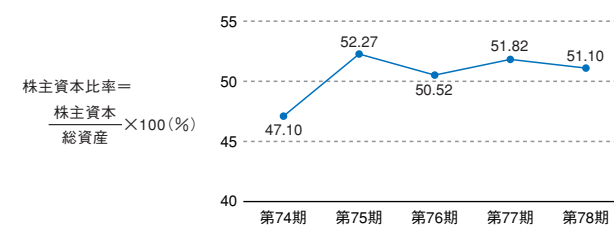
科目	当期 (H17.4.1から H18.3.31まで)	前期 (H16.4.1から H17.3.31まで)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	18,324	18,324
資本剰余金期末残高	18,324	18,324
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	50,970	45,171
利益剰余金増加高	4,334	7,023
当期純利益	4,334	7,023
利益剰余金減少高	1,361	1,225
配当金	1,312	1,181
役員賞与	48	43
利益剰余金期末残高	53,942	50,970

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 1 有形固定資産

主として製菓・製パン素材事業・大豆たん白事業に関する投資等による増加であります。

POINT 2 株主資本比率



POINT 3 売上高

19期連続の増収であります。

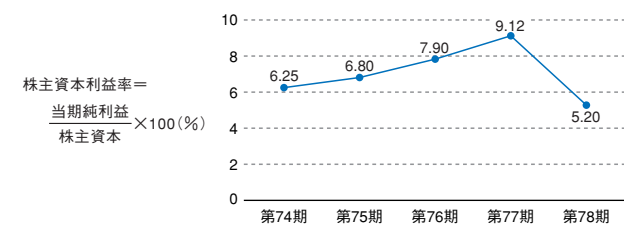
POINT 4 経常利益

主に原料コストの上昇、減価償却費の増加、支払利息の増加等により減益となりました。

POINT 5 特別利益

前期は主に厚生年金基金代行部分の返上益があったためであります。

POINT 6 株主資本利益率





貸借対照表

科目	当期末 (H18.3.31現在)	前期末 (H17.3.31現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	36,148	35,235
現金及び預金	880	951
受取手形及び売掛金	20,136	20,078
有価証券	266	266
たな卸資産	12,358	10,729
その他	2,507	3,209
固定資産	101,615	94,254
有形固定資産	57,523	55,035
建物及び構築物	21,118	20,764
機械装置及び運搬具	19,716	19,073
土地	13,806	13,528
建設仮勘定	1,707	602
その他	1,174	1,066
無形固定資産	675	461
投資その他の資産	43,416	38,758
投資有価証券	12,604	8,362
その他	30,811	30,395
資産合計	137,763	129,490

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

科目	当期 (H17.4.1から H18.3.31まで)	前期 (H16.4.1から H17.3.31まで)
<b>経常損益の部</b>		
営業収益	107,757	108,190
営業費用	99,802	99,147
営業利益	7,954	9,042
営業外収益	1,376	1,403
営業外費用	871	835
経常利益	8,460	9,610
<b>特別損益の部</b>		
特別利益	—	2,316
特別損失	443	2,589
税引前当期純利益	8,016	9,337
法人税、住民税及び事業税	2,867	2,617
法人税等調整額	89	764
当期純利益	5,060	5,956
前期繰越利益	11,206	6,611
中間配当額	656	656
当期末処分利益	15,611	11,911

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科目	当期末 (H18.3.31現在)	前期末 (H17.3.31現在)
<b>負債の部</b>		
流動負債	24,711	30,966
支払手形及び買掛金	9,946	10,206
短期借入金	7,210	8,110
一年内償還予定社債	0	5,000
未払法人税等	1,834	1,392
賞与引当金	1,158	1,152
その他	4,561	5,105
固定負債	24,967	16,256
社債	10,000	—
長期借入金	13,000	14,000
退職給付引当金	1,612	1,955
役員退職慰労引当金	337	283
その他	16	17
負債合計	49,679	47,223
<b>資本の部</b>		
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	18,324	18,324
利益剰余金	52,137	48,438
利益準備金	2,017	2,017
任意積立金	34,508	34,508
当期末処分利益	15,611	11,911
株式等評価差額金	4,459	2,340
自己株式	△45	△44
資本合計	88,084	82,267
負債・資本合計	137,763	129,490

利益処分

科目	当期 (H17.4.1から H18.3.31まで)	前期 (H16.4.1から H17.3.31まで)
当期末処分利益	15,611,044,970	11,911,841,488
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	656,467,838	656,478,983
	(普通配当1株につき7.5円)	(普通配当1株につき7.5円)
取締役賞与金	33,100,000	48,790,000
次期繰越利益	14,921,477,132	11,206,572,505

(注) 平成17年12月9日に656,474,235円(1株につき7.5円)の中間配当を実施しております。

(単位：円)

株式の状況

(平成18年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	357,324,000株
発行済株式の総数	87,569,383株
株主数	25,238名
1人当たりの平均所有株数	3,470株

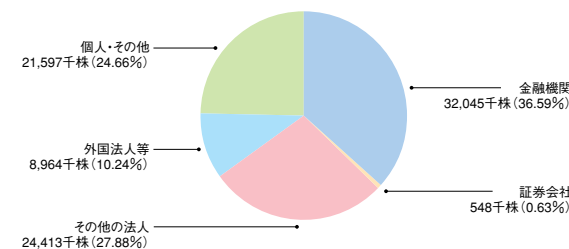
大株主

(平成18年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
伊藤忠商事株式会社	16,409	18.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,356	6.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,818	5.5
日本生命保険相互会社	2,845	3.2
東京海上日動火災保険株式会社	2,828	3.2
バンクオブニューヨーク・シー・エムクライアントアカウントアイエス・ジー株式会社	2,242	2.6
三井住友銀行	1,875	2.1

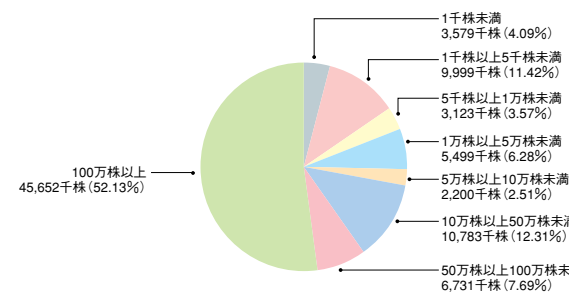
所有者別分布状況

(平成18年3月31日現在)



所有株数別分布状況

(平成18年3月31日現在)



株価の推移



会社概要

(平成18年3月31日現在)

創 立	1950年(昭和25年)10月
資 本 金	13,208百万円
代 表 者 名	代表取締役社長 浅原 和人
連 結 売 上 高	175,172百万円
連 結 経 常 利 益	8,952百万円
連 結 総 資 産	171,936百万円
単 体 売 上 高	107,757百万円
単 体 経 常 利 益	8,460百万円
単 体 総 資 産	137,763百万円
全グループ従業員数	2,992名
不二製油従業員数	1,046名

役員

(平成18年6月23日現在)

代表取締役社長	浅原 和人	取 締 役	田 中 茂治 (新任)
専務取締役	二宮 幸博	常 勤 監 査 役	山 口 正之
専務取締役	小幡 静雄	常 勤 監 査 役	南 廣次 (新任)
常務取締役	森 弘之	監 査 役	青 木 芳久
常務取締役	海老原 善隆	監 査 役	栢 沼 康夫
常務取締役	片山 務		
常務取締役	河部 博国		
常務取締役	寺嶋 正彦		
常務取締役	岡本 和三		
取 締 役	岩朝 央		
取 締 役	高木 茂		
取 締 役	寺西 進		
取 締 役	清水 洋史		
取 締 役	山中 敏正 (新任)		

退任役員

専務取締役	菅谷 智明
常務取締役	中嶋 義昭
取 締 役	渡邊 康平
常勤監査役	勝間 健彦

主要海外グループ会社

- フジ オイル(シンガポール)
- ウッドランド サニーフーズ
- フジ サニーフーズ
- パルマジュ エディブル オイル
- フジ ベジタブル オイル
- ソヤファームUSA
- フジ オイル ヨーロッパ
- ニューレイト エディブル オイル
- フレイアパティインドタマ
- 不二製油(張家港)有限公司
- 吉林不二蛋白有限公司
- 山東龍藤不二食品有限公司
- 上海旭洋绿色食品有限公司
- 天津不二蛋白有限公司

主要国内グループ会社

- トーラク 株式会社
- フジフレッシュフーズ 株式会社
- フジプロテインテクノロジー 株式会社
- ケイ・ピー食品 株式会社
- ワルツファンシー 株式会社
- 不二バター 株式会社
- 株式会社 フクシヨク
- 株式会社 合志商事
- 今川 株式会社
- 株式会社 エフアンドエフ
- 株式会社 阪南タンクターミナル
- 千葉ベグオイルタンクターミナル 株式会社

# 海外で、国内で、活躍する 不二製油グループのネットワーク。

様々な機能をもつ食品素材を中心に、多彩な製品を世界へ提供している不二製油グループ。開発型グローバル企業をめざし、グループ37社のネットワークを活用したバリューチェーンの構築を進めています。

食品素材からコンシューマー製品まで、「食」に関する幅広い事業領域をもつ不二製油グループ。製品の競争力を高め、優位性を確保するために、「原材料や製品の安心・安全・品質の確保」と「世界の市場ニーズへの的確な対応」をめざして、グローバルに展開するネットワークを活用しています。

「食」に携わる企業として重要な「安心・安全・品質」については、グループ全体で品質管理体制を強化し、ISO(品質管理)やHACCP(安全性管理)など、国際的な認証取得を推進しています。また、市場ニーズへの的確な対応のため、三新開発成果発表会や、グループ研究開発



大豆たん白食品の生産能力を増強  
山東龍藤不二食品有限公司

会議を開催するなど、不二製油グループ内の情報交換や情報の共有化をはかり、連携を強化して新製品

開発に取り組んでいます。

市場での優位性の鍵を握る生産体制は海外生産拠点の拡充をはかってまいりました。新設・増設の各工場は稼働を開始しております。

2004年5月に稼働した米国のチョコレート用油脂工場は、世界的に需要の高まっているチョコレート用油脂を生産し、グローバルに販売しています。

中国は、将来性豊かな大豆たん白関連の中核的生产拠点です。

大豆の産地に近い、中国・吉林省に増設した大豆たん白素材工場は、第2期工事を完了し、中国内外に販売を拡大しています。2005年5月、天津に完成した大豆ペプチド工場は、日本・中国・海外市場向けに販売。山東省には大豆たん白食品の第2工場を新設し、日本市場や需要が拡大している中国市場へ拡販しています。



大豆ペプチド工場を中国に建設  
天津不二蛋白有限公司



## 株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
〈郵便物送付先〉	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
〈電話照会先〉	[住所変更等用紙のご請求] ☎0120-175-417 [その他のご照会] ☎0120-176-417
〈インターネットホームページURL〉	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
同取次所	住友信託銀行株式会社全国各支店
単元株式数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京・大阪



**FUJI OIL CO., LTD.**

<http://www.fujioil.co.jp>

## 不二製油ホームページ

インターネットで不二製油グループの概況や事業活動をご紹介します。ぜひご覧ください。



<http://www.fujioil.co.jp>

**r100**

古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています。



本紙は再生紙(古紙パルプ100%)、大豆油インキを使用しています。